

グリア創薬の最前線と可能性

The Frontline and Possibility of New Drug Development Targeting Glial Functions

井上 和秀¹

¹九大院薬

グリア細胞（アストロサイト、ミクログリア及びオリゴデンドロサイト）は、中枢神経疾患時にその形態、機能、発現分子等が激変する細胞である。これまでの中枢神経疾患治療薬の開発は、ニューロンを標的としたものであったが、欧米では既にグリア細胞を標的とした医薬品開発（「グリア創薬」）が密かに進められている。例えば、脳保護薬を意図したアストロサイトのグルタミン酸トランスポーター発現増加薬などがある。我が国はこの点で後塵を拝しているが、グリア・ニューロン相互作用に関する基礎研究では世界の最前線を走っている(Tsuda et al., Nature 2003; Koizumi et al., Nature 2007)。このように、我が国でのグリア創薬のポテンシャルは非常に高いと考えられるが、それを有効に活用して医薬品創製に向けての取り組みはほとんどなされていない。本シンポジウムでは、グリア創薬の最前線で国内をリードしている研究者に集まっていただき、グリア創薬の基礎研究の現状と問題点、ならびに可能性について発表および論議していただく。